

エスディージーズ
(仮称) 北海道SDGs推進ビジョン (原案) 【概要版】

平成30年10月
北海道

1 ビジョンの基本的な考え方 【本編 P1~P8】

(1) 策定の趣旨 【本編 P1】

- ✓ 国際社会では、かけがえのない地球環境を守り、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」を共通の指針として掲げ、その実現に向けた取組が広がっている。
- ✓ 2018 年、「北海道」と命名されてから 150 年という節目を迎えた中、これから先の 50 年、100 年後に向け、地域創生の成果を確かなものとし、世界の中で北海道の存在感を高め、世界とともに歩む持続可能な地域づくりを進めていくために、積極的なSDGsの推進が重要。
- ✓ SDGsの推進に当たっては、その理念や意義について道民の皆様の理解が広がり、広範で多様な主体が連携しながら、幅広い分野や地域で様々な取組が展開されることが欠かせないため、「北海道SDGs推進ビジョン」を策定し、SDGsのゴール等に照らした、本道の直面する課題、独自の価値や強みを踏まえた「めざす姿」などを示すとともに、道民の皆様と共有しながら、北海道全体でSDGsの推進を図る。

(2) ビジョンの位置付け 【本編 P1】

- ✓ 本道におけるSDGsの推進のため、SDGsの理念や意義、本道の「めざす姿」や優先課題・対応方向、推進手法などを示すものであり、道内の多様な主体が互いに共有する基本的な指針。
- ✓ ビジョンを通じ、各主体がSDGsという「共通のものさし」を持ちながら、それぞれの活動においてSDGsの主流化に取り組むとともに、連携・協働した取組を促進するなど、道内で積極的な取組が展開されるためのガイドラインとして活用。

(3) 目標年 【本編 P2】

国連の持続可能な開発のための 2030 アジェンダの目標年である 2030 年

(4) SDGsの概要等 【本編 P2~P8】

<p style="text-align: center;">① SDGsの概要及び動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015 年9月に国連で採択されたSDGsは 17 のゴールと 169 のターゲットで構成 ・ 2000 年に採択されたミレニアム開発目標(MDGs)の理念を取り込みつつ新たに策定 ・ 誰一人取り残さない、包摂的な世界の実現を理念に、経済、社会、環境の統合を目指す 	<p style="text-align: center;">② SDGsの推進に期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> i 地域創生の推進 ii QOL(生活の質)の向上 iii ビジネスチャンスの拡大や企業の持続可能性の向上 iv 国内外の多様な主体との連携やパートナーシップの推進 v 国内外への魅力の発進 	<p style="text-align: center;">③ SDGsへのアプローチ手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsと自らの活動を関連付けながら、具体的な行動につなげていく ・ 経済・社会・環境の三側面のバランスがとれるように取り組む ・ 身近なところから始め、より深く進めていく
--	---	--

2 北海道を取り巻く状況【本編 P9～P42】

(1) 北海道の現状・課題【本編 P9～P32】

SDGsのゴール・ターゲットや指標と関連性の高い各種データを用いて、本道の現状や課題を表す。






① 生活・安心【本編 P9～P17】

区分	関連する主なゴール	ゴールの主な内容	本道の現状・課題
健康・福祉	ゴール3 (保健)	 全ての人が質の高い保健医療サービスを受けられる	・ 安心して子育てできる社会づくり、地域医療の確保、健康づくりの推進、疾病の予防
環境	ゴール13 (気候変動)	 気候変動及びその影響を軽減する	・ 低炭素型社会への転換、気候変動による影響への対応、地球温暖化対策
安全・安心	ゴール16 (平和)	 全ての暴力の撲滅や、あらゆる形態の組織犯罪の根絶	・ 犯罪のない安心して暮らせる社会の実現
防災	ゴール11 (持続可能な都市)	 あらゆるレベルでの総合的な災害リスクの管理	・ 安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立

② 経済・産業【本編 P18～P25】

区分	関連する主なゴール	ゴールの主な内容	本道の現状・課題
農林水産業	ゴール2 (食料)	 農家や漁業者などの生産性及び所得を倍増させる	・ 農林水産業の生産力強化や所得の確保
地域産業と研究開発	ゴール9(インフラ、産業化イノベーション)	 科学研究を促進し、技術能力を向上させる	・ 高い付加価値を生み出すものづくり産業の振興や科学技術の振興
中小小規模企業	ゴール8 (経済成長と雇用)	 生産活動や起業などの支援により中小零細企業の設立や成長を奨励する	・ 地域の経済・雇用を支える中小小規模企業の振興
エネルギー	ゴール7 (エネルギー)	 再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる	・ 新エネルギーの開発及び導入の促進
観光	ゴール8 (経済成長と雇用)	 持続可能な観光業を促進する	・ 滞在交流型の観光地づくりや国内外への誘客活動による旅行市場の拡大
雇用	ゴール8 (経済成長と雇用)	 全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する	・ 産業人材の育成・確保や多様な働き手の就業支援と就業環境の整備

③ 人・地域【本編 P26～P32】

区分	関連する主なゴール	ゴールの主な内容	本道の現状・課題
地域	ゴール11 (持続可能な都市)	 持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する	・ 人口減少、生活交通の確保や生活支援、移住・定住の促進
教育	ゴール4 (教育)	 全ての子供が無償かつ公正で質の高い教育を受けられる	・ 地域の教育水準を維持するための教育環境の充実
男女平等・女性活躍	ゴール5 (ジェンダー)	 全ての女性に対する暴力の排除、育児・介護などを認識・評価する	・ 配偶者等からの暴力(DV)の根絶、育児や介護を行いつつ働ける環境づくり
文化	ゴール11 (持続可能な都市)	 世界の文化遺産の保護・保全の努力を強化する	・ 先人から受け継いだ財産の保護・保全、文化財の活用
インフラ	ゴール9(インフラ、産業化イノベーション)	 質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する	・ 建築物の耐震化や既存施設の長寿命化、交通ネットワークや交通基盤の充実

(2)世界に誇れる北海道の価値と強み [本編 P33~P42]

SDGsという世界共通のものさしを活用しながら、本道の価値や強みを表す。

区分	関連するゴール	ゴールの主な内容	本道の価値と強み
① 魅力となる雪や寒さ	ゴール8 (経済成長と雇用)	・ 持続可能な観光業を促進する	・ 良質な雪や冬のイベントは北海道ブランドの一つであり、貴重な観光資源として活用
② アジア・ロシア極東との近さなど 地理的優位性	ゴール8 (経済成長と雇用) ゴール11 (持続可能な都市) ゴール13 (気候変動)	・ 一人当たり経済成長率を持続させる ・ 災害リスク管理の実施 ・ 自然災害等に対する強靱性及び適応能力を強化	・ アジアやロシア極東とのビジネス拡大に活用 ・ 首都圏から遠距離で同時被災の可能性が低いなど、リスク分散に適していることを活かし、本道への企業立地の促進に活用
③ 厳しい自然条件などのもとで 培われた優れた技術	ゴール9(インフラ、産業化、イノベーション)	・ クリーン技術及び環境に配慮した技術の導入拡大を通じた産業改善	・ 積雪寒冷という厳しい気象条件を背景に進化した様々な技術(寒冷地住宅技術、省エネ・新エネ技術等)の活用
④ 優れた自然環境・豊かな水資源と森林	ゴール6 (水と衛生) ゴール14 (海洋資源) ゴール15 (陸上資源)	・ 森林、河川、湖沼など水に関連する生態系の保護・回復 ・ あらゆる種類の海洋汚染の防止や海洋及び沿岸の生態系の回復 ・ 森林をはじめとする陸域生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する	・ 知床世界自然遺産やラムサール条約登録湿地など本道の優れた自然環境や豊かな水資源、森林の保全
⑤ 広大な土地・3つの海を背景とした 高い食料供給力	ゴール2 (食料) ゴール8 (経済成長と雇用)	・ 全ての人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする ・ 一人当たり経済成長率を持続させる	・ 災害時等における安定した食料供給機能の維持・発揮 ・ 「食の北海道ブランド」を活かした道産食品の輸出拡大
⑥ 豊富で多様なエネルギー資源	ゴール7 (エネルギー)	・ 再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる	・ 太陽光や風力、バイオマスなど多様なエネルギー資源の有効活用
⑦ 多様性に富む地域	ゴール8 (経済成長と雇用) ゴール11 (持続可能な都市) ゴール12 (持続可能な生産と消費)	・ 持続可能な観光業を促進する ・ 持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する ・ 観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する	・ 地域資源を活かした地域づくりの取組を観光資源として活用 ・ 様々な意見を踏まえた計画に基づき、本道の強みを活かす取組を促進 ・ 多様な地域の魅力ある居住環境を活かした移住・定住の促進
⑧ 独自の歴史・文化	ゴール4 (教育) ゴール11 (持続可能な都市)	・ 技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる ・ 世界の文化遺産の保護・保全の努力を強化する	・ 目覚ましい活躍が見られる冬季スポーツ等におけるトップアスリートの育成 ・ 縄文遺跡群やアイヌの歴史・文化などの保存・継承

3 北海道のめざす姿と優先課題・対応方向 [本編 P43～P79]

(1)めざす姿 [本編 P43]

「世界の中で輝きつづける北海道」

～ 世界に誇れる北海道の魅力を磨き、育て、様々な強みを活かし、SDGsの推進に積極的に取り組むことによって、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していく ～

<北海道の危機と可能性>

- ・ 人口減少や高齢化、大規模自然災害への対応など地域の存亡に関わる課題に直面
- ・ 豊かで美しい自然環境や安全・安心な食など本道ならではの価値と強みの存在

<SDGsの推進>

2018年、北海道は命名150年の節目を迎え、また、「SDGs未来都市」に選定された中、世界の中で存在感を高め、世界とともに歩む持続可能な地域づくりを進めていくため、様々な価値と強みを活かしながら、SDGsの推進に積極的に取り組んでいくことが重要

めざす姿の考え方

めざす姿を、道民の皆様をはじめ、多様な主体が共有し、その実現に向けて力を合わせて取り組んでいく

(2)優先課題と対応方向 [本編 P44～P79]

- ✓ 「めざす姿」の実現に向けては、多様な主体が本道の課題や価値・強みなどをSDGsと関連付けながら、取り組む課題を共有することが重要。
- ✓ このため、ビジョンでは、SDGsのゴール・ターゲットや国の実施指針、本道の課題、価値や強みなどを踏まえながらSDGsの推進に当たって優先的に取り組む5つの課題を示す。
- ✓ また、優先課題ごとに、各主体が様々な取組を進めていくための19の「対応方向」のほか、今後の取組に向けて参考となる「主な取組例」や「道の主な取組」を示す。
- ✓ 対応方向ごとに、各主体がSDGsを推進する上での目標やその達成状況を分かりやすくするための指標を設定。

【優先課題】

【対応方向】

I あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成	i 医療・保健・福祉の充実 ii 平和な社会づくりの推進 iii 人々が互いに尊重し合う社会づくりの推進 iv 災害に強い地域づくりとバックアップ機能の発揮 v 安心して働ける環境づくりの推進	※対応方向ごとに以下を掲載 ・「参考となる主な取組例」 ・「道の主な取組」 ・「指標」
II 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現	i 豊かな自然と生物多様性の保全の推進 ii 地球環境保全の推進 iii 持続可能な生産と消費の推進	
III 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長	i 持続可能な農林水産業の推進 ii 地域産業の創造やイノベーションの推進 iii 中小・小規模企業の振興 iv 海外成長力の取り込みや多様な地域資源の活用による持続的な経済の発展	
IV 未来を担うづくり	i 子ども・青少年の確かな成長を支える環境づくり ii 地域や産業を担う人材の育成・確保 iii 女性が活躍できる社会づくり	
V 持続可能で個性あふれる地域づくり	i 様々な連携で支え合う地域づくりの推進 ii 北海道独自の歴史・文化の継承やスポーツの振興 iii 国際協力や多文化共生の推進 iv 社会・経済を支える持続可能なインフラ整備の推進	

4 ビジョンの推進 [本編 P80～P82]



<ゴール17(実施手段)の主な内容>

- ・ 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

<本道におけるSDGsの推進>

- ・ 道内の各主体にSDGsが広く浸透し、様々な分野や地域で具体的な取組が展開されるよう、多様な主体の連携・協働関係を構築することなどが必要

(1)各主体の取組 [本編 P80～P81]

<道民>

- ・ 一人一人がそれぞれの立場において、ライフスタイルを持続可能なものに転換
- ・ 身近な環境をよりよいものにしていくための自主的、積極的な行動の推進(健康づくり、交通安全、省エネ等)
- ・ 国や地方自治体が設ける政策決定等の機会への積極的な参加 など

<企業>

- ・ SDGsを自らの本業に取り込み、ビジネスを通じた社会的課題の解決への貢献
- ・ イノベーションを通じた社会に有用な付加価値及び雇用の創造
- ・ 環境・社会・ガバナンス(企業統治)に配慮した経営の推進 など

<NPO・団体>

- ・ 地方自治体や企業など各主体の取組の評価、専門的情報の市民への分かりやすい伝達
- ・ 自らの専門的能力や国際的・地域的ネットワークを活かした問題提起や政策提言の実施 など

<教育・研究機関>

- ・ 最新の科学的知見を踏まえた、データの共有、知見の情報提供、政策の分析や技術開発の推進
- ・ 持続可能な地域や産業の担い手を育成するためのSDGsに関する学習等の積極的な推進 など

<地方自治体>

- ・ 各種計画等の策定や改訂におけるSDGsの要素の反映によるSDGsの主流化
- ・ 普及活動など様々な主体の積極的な参加を促す取組の展開
- ・ 取組事例の国内外への効果的・戦略的な情報発信 など

(2)推進手法 [本編 P81～P82]

<多様な主体の連携・協働>

- ・ SDGsの実践者や関心を有する多様な主体が参画し、情報発信・共有、意見交換、連携・協働した取組、普及活動等を行う「北海道SDGs推進ネットワーク」などを活用し、SDGsに関する連携・協働に取り組んでいる団体等の協力を得ながらSDGsの推進に向けた取組を実施
- ・ 様々な機会を通じた普及活動等により、道内各層・各地域の方々にビジョンをはじめSDGsを周知するなど、多様な主体によるSDGsの主流化や優先課題の解決に向けた取組を促進

<道としての取組>

- ・ 「北海道SDGs推進本部」の下、ビジョンに沿って多様な主体と連携を図りながら幅広い分野や地域でSDGsを推進
- ・ 道が推進する重点的な取組を「SDGs未来都市計画」として取りまとめ
- ・ 各種計画等への策定や改訂に当たりSDGsの要素の反映に努めるとともに、道政におけるSDGsの主流化を図る
- ・ 各種事業におけるPRや広報ソールの活用、様々な主体と連携した取組の実施等によるSDGsの普及促進

(3)推進管理 [本編 P82]

- ✓ 各主体の主な取組状況は、北海道SDGs推進ネットワークの活動などを通して把握し、広く共有するとともに、道内外に情報発信
- ✓ 道の取組については政策評価を通じ、SDGs関連施策の推進状況を取りまとめ、公表
- ✓ ビジョンに設定した指標を用いて、進捗状況のフォローアップを実施
- ✓ ビジョンは、経済社会情勢の変化やSDGsに関する道内外の動向などを踏まえ、多様な主体の参画の下、幅広く意見を伺いながら、必要に応じて見直し